

“鉄より堅く逞しき”

生徒指導通信 第28号
令和3年12月6日発行
黒沢尻工業高等学校

○ “過去に囚われた自分”を開放しよう！

誰でも「～すべき」「～じゃなきゃいけない」「～なのは当たり前」と思ったり、感じたり、考えたりすることはあるものです。それは、今までの経験や学習によって積み重ねてきた習慣、思考パターン、思い込み、価値観が根元にあるからです。

そうでなければ駄目でしょうか？いつも「すべき」

「じゃなきゃいけない」「当たり前」としていたら、今、この瞬間に目の前で起こっていることを素直に受け取ることが出来なくなってしまう可能性があります。つまり、過去に囚われていると、パターン化してしまい「今までと《同じことしか》できなく

なる」「今までと《同じことしか》しなくなる」ものです。自分では意識していなくても、そうなっている場合もあります。この“固定観念”は厄介で、自分をより良くしたいと思っても邪魔してしまい、成長の妨げになることが多いです。

ならば、“過去に囚われた自分”を開放してみませんか？開放することで、目の前で起こっていることをあるがままに見て、思い込まずに素直に受け取ることが出来るはずです。何かに「あれっ?！」と思えたら、すぐに拒否しないで考えましょう。「考えられない」のではなく、ただ「考えない」ように決め込んでいるだけです。

そうして、「今までと《同じこと》を選ぶ」ことも「今までと《違うこと》を選ぶ」ことも可能になり、“なりたい自分”に向けて最適、最良の選択や判断が出来るようになるでしょう。

○ “ジャマおじ” “ジャマおば” にならない

勉強でもスポーツでも、全ての活動のエネルギー源とも言えるのがやる気です。生徒たちがやる気になり、自ら考えて行動できれば、未来はより明るくなるはずです。

我々教員や保護者の皆さんが「やる気を引き出そう」という考えは大切ですが、生徒たちのやる気を奪わないことを心掛けることが肝心です。しかし、こちらが良かれと思ってしている行動や関わりが、生徒のやる気を削いでしまう可能性もあります。

“やる気”は心のエンジンのようなものです。どんなに良いボディを持っていたても、エンジンが故障していれば、うまく走ることができません。生徒たちが持つエンジンを傷つけてしまう方法は、以下のようなことが考えられます。

- 完璧を求め過ぎること。 ●欠点ばかり指摘すること。 ●周りの生徒や兄弟と比較すること。
- どうせ続かないだろう？と伝えること。 ●達成できそうにない目標を与えること

「あそこが悪い」「ここが悪い」と欠点ばかり指摘したり、「明日から勉強頑張る！」と意気込んでいる子どもに対し、「どうせ無理でしょ!」「いつも続かないだろう!」と決めつけて、やる気を削いでいないでしょうか。意識してプラスの声掛けをしてみたり、余計な口出しをしないで見守るだけでも、子どもたちの“やる気の炎”はスパークし続けてくれるかも知れません。

我々大人にできることは、環境を整え、関わり方を見つめ直し、彼らの熱を守ることです。子どもたちのやる気を奪わない行動を心掛けましょう。

